

## 第2回新市将来構想策定小委員会

# 議 事 録

## 第2回新市将来構想策定小委員会会議録

### 1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成15年4月8日(火) 午後6時30分
- ・場 所 長岡市役所大会議室

### 2 会議出席委員の氏名

豊口 協	二澤 和夫	山本 俊一	山谷 一郎
佐々木保男	熊倉 幸男	米持 昭次	坂牧 宇一郎
長谷川 孝	朝日 由香	村上 雅紀	北村 公
池田 守明	石黒 貞夫	小池 進	高野 徳義
野田 幹男			

以上 17名

### 3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

## 第2回長岡地域任意合併協議会新市将来構想策定小委員会議事録

平成15年4月8日

事務局（北谷事務局長）

皆様、本日はお忙しいところお集まりくださりまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより長岡地域任意合併協議会第2回新市将来構想策定小委員会を開催させていただきます。

なお、本日の小委員会は、朝日委員が若干遅くなられるというご連絡をいただいておりますが、委員全員のご出席をいただくこととなりましたので、小委員会規程により会議が成立していることをご報告いたします。

次に、本日の議事に係る資料のご確認をお願い申し上げます。事前に配付したものの、また本日追加したものがありますので、それぞれ必要なものがあるかどうかご確認ください。

本日の会議資料として会議次第、資料1、資料2、資料3、資料4、資料5、資料6、そして資料7を配付させていただいております。なお、会議次第、資料1、資料2、資料5、資料6につきましては事前に配付させていただきましたが、資料2の現況調査については、机に用意させていただきました(7)の道路整備状況と表題の記載してある12、13ページの2枚と、(2)財政の歳入・歳出構造の表題、P16の1枚につきまして、大変申しわけございませんが、差し替えをお願いいたします。なお、ワークショップ参加予定者についての資料につきましては、資料6のまちづくりワークショップについての追加資料となっております。資料の方は皆様お揃いでしょうか。

「はい」という声あり

事務局（北谷事務局長）

それでは、お手元の次第に従いまして順次進めさせていただきます。なお、恐れ入りますが、ご発言の際はお近くのマイクを使われますようお願い申し上げます。

まず初めに、小委員会委員の変更がございましたので報告いたします。栃尾市の外山康男委員にかわり、新たに山谷一郎様が栃尾市総務課長に就任されました。つきましては、本日の会議より当小委員会の委員になられましたのでご報告申し上げます。

それでは、議事に入らせていただきます。この後の進行につきましては、豊口委員長よりお願いいたします。

豊口委員長

それでは、早速でございますけれども、議事に入らせていただきます。実は私まだ花粉症でちょっと苦しんでおりまして、お聞き苦しい点があると思いますが、ひとつお許しいただきたいと思っております。

お手元の資料、協議事項6項目ほど用意されておりますが、一つずつ事務局の方から説明をいただきながら進めてまいりたいと思っております。

それでは、最初の地域現況調査結果についてよろしくお願いいたします。

事務局（竹見班長）

任意合併協議会事務局の計画班の竹見と申します。よろしくお願いします。

資料の2の方をご覧いただきたいと思いますが、座って説明させていただきます。

資料2は現況調査についてということで、（概要）と書いてあるところをご覧いただきたいと思いますが、まず、前回の第1回目の小委員会でございますけれども、そのときに現況調査の目的とか分析の視点ということでご説明をさせていただきました。

まず、現況調査の目的でございますけれども、こちらの活用のイメージという欄の下に四角で囲ってございます。まず、としては現状認識の共有化が必要であろうということです。それから、に書いてございますように、各自治体の地区の特徴、課題を把握するということで、これは合併を機会に地域を見詰め直していきましようとか、それから地域の個性とか、それから特性をこの中で引き出していく必要があるということでこういった目的を持っていきたいということです。それから、3番でございますけれども、合併後地域の姿に関する認識の共有化ということで、現状のまま8市町村が一緒になったときどういうふうになるかということを目的としていきたいということです。

それから、分析の視点でございますけれども、前回の小委員会の方では、いわゆる生活、住む、働く、学ぶ、遊ぶ、交流並びに地域の機能ということで安全、社会保障、環境、情報、エネルギー、交通、物流の観点から地域の姿を整理していこうということです。

今日は活用のイメージをちょっとご説明させていただきますけれども、右の方に四角で囲ってありますように現況調査として整理するデータということで、こちら主に事務局の方で作業ということになりますけれども、こういった先ほどの分析をしながら客観的な地域の姿を出していくと。例えば新潟県平均との比較とか、それから各種指標の水準、それから地域文化の整理とか、そういったものを行ったり、社会情勢の整理を行って課題の整理を行っていくと。真ん中に四角で点線で囲ってありますように、そういった課題の整理とかデータを基礎知識として今後、左の方に四角で囲ってございますように、任意合併協議会、それから本日の小委員会とか、それからアンケート調査、ワークショップ、地域住民の方々にいろんな情報を提供させていただいて、今後将来構想をつくっていく中で住民の発想によるなりたい地域の把握、あるいはなりたい地域と関係する地域資源とは何かとか、どういう状況にあるかというのを今後把握していくと。協議の途中で、真ん中の水色に書いてございますが、追加、再調査の実施が必要であれば、その中でも今後もやっていくということになるかと思えます。それから、背景の分析ということで、どのような形で反映されるか、そういった検討が必要であれば、関連が深い地域資源等の明示も今後行っていきたいなと、そんな形で活用のイメージをご説明をさせていただきました。

では、2ページ目をご覧いただきたいと思いますが、調査項目の分類と今回のご提示するデータということでございますけれども、前回の第1回目の小委員会の資料でご提示させていただいた部分というのが下の四角で囲ってある部分の左側の部分でございます。大分類、小分類ということで、大分類は自然・社会環境、それから2番で住む、3番、働く、4番、学ぶ、交流するということを大分類として大まか

に分けて、あとは小分類で分けて分析をしてきたということです。

今回特にご提示させていただきたいデータとしては、現況調査の結果のうち地域の特性に関するもの、それから地域資源として主なものを抽出をさせていただきました。今回地域資源的な内容ということで右の四角の中に入れてございますようなものを抽出しながら今日ご説明をさせていただきます。詳しい内容につきましては、コンサルタントの方から説明をいたします。

コンサルタント（小原）

小原と申します。よろしくお願ひいたします。座って失礼いたします。

それでは、項目が大変たくさんございますので、少し簡単でございますけども、少しずつ説明させていただきますと思います。

まず、3ページの自然・社会環境の中の位置及び範囲でございますが、これは8市町村の位置を南側から、上空の方から標高を拾って見てみるとこのような位置関係になりまして、雄大な信濃川の周りに8市町村が存在しているということがよくわかっていただけるのではないかと思います。

続きまして、4ページでございますが、それぞれの市町村間の距離というものをひとつ見るのに役場同士の距離を時間というもので見てみますと、およそ30分から40分ぐらいの位置であるということがわかります。

続きまして、5ページでございます。面積でございますが、8市町村の総面積は合計で808.77平方キロメートルとなります。これは、右側の表になりますけども、今現在の全国の自治体の面積、大きい順に並べておりますが、仙台市を抜いて、8市町村合計であれば仙台市よりも大きな行政面積になるということになります。

また、可住面積というものがございまして、これは主な行政面積の中から林野面積と、それから大きな湖等の面積を引いたもので、人が住めるところと申しますか、比較的平らなところと申しますか、そういった面積を表しているんですが、これが平均で大体55%ということで、半分ほどが人が住める地域で、残りの半分は豊かな自然になっているというようなことがわかります。

続きまして、6ページ、市町村の成り立ちでございます。これはもう8市町村、現在の姿になった時期がそれぞれ昭和31年頃からあるわけですが、これまで何度も合併とか、編入とか、そういったことを繰り返してきているということでございます。ここで一つ挙げてございます資料6ページの上の表、中之島町の現在の姿になった時期ということで明治34年10月となっておりますが、これは11月の間違いでございます。訂正させていただきます。申しわけございませんでした。

続きまして、7ページでございます。こちらに人口と世帯数を示しておりますが、大きなものとしてはまず合計の人口が8市町村合計では30万人を超えることになるということで、これは中核市というもの一つの指定の条件を満たすこととなります。また、下の図では1世帯当たりの人口ということで、人口を世帯数で割ったものを経年で表しております。傾向としては数字がどんどん小さくなっていておりますので、これは1世帯当たりの人数が減っているということで、核家族化の傾向があるというこ

とでございます。

また、あと7ページの下のグラフで少し共通の見方なんですけども、下の方にあります新潟市とか全国とか書いてありますような赤い三角印、比較の対象のものを赤の三角、それから真ん中あたりに8市町村計と書いてございますが、青色の丸印、これが合計の8市町村の姿でございます。あとはそれぞれの市町村様ごとに色分けして示しております。

続きまして、8ページでございます。こちら人口増減と少子高齢化の話でございますが、続く9ページの方に各市町村様の年齢層別の人口構成分布を示させていただいておりますが、こういうデータをもとに若い年齢層、主に14歳以下の人口の割合と、それから老年層と、65歳以上という方の年齢構成を拾いまして、それぞれ高齢化あるいは少子化というものの指標にして示したのが戻りました8ページのグラフでございます。このように地域によっては高齢化や少子化が非常に顕著な自治体もあるということでございます。

続きまして、10ページ目に人口の見通しということで数字を示させていただいております。これは、ある一つの目安として過去と同じような人口の増減がそのまま続くという仮定のもとに人口がどうなるかというものを推測したというもので、必ずこうなるというものではございませんので、あくまで参考ということでございますが、現在のような人口の増減の形でいきますと、続く11ページの方にグラフで示しておりますが、平成27年ごろには30万人、8市町村合計でも30万人を下回るというような傾向を読み取れますし、あるいは高齢化が更に進んでいくというような推計結果となっております。

続く12ページでございます。こちらにつきましては、資料の差しかえをお願いしておりますが、差しかえさせていただいた資料の方では各自治体が管理されている市町村道の改良率と舗装率というものを提示させていただいております。改良率という言葉は、そこに書いてある定義、道路構造令の規格と書いてありますが、簡単に言いますと計画された自動車交通に対してそれを満たすような道路の幅員、幅とか、そういったものが満たされたものとして整備されているかどうかというのを改良率というもので見ております。もう一方の軸であります舗装率は、道路がアスファルト等で舗装されているということで自動車等の走行性が高いというものの目安でございます。これにつきましても、今現在で8市町村さんでかなりばらつきがあるということ、それから参考として下に市町村道と主要道路の舗装率の違いということで、ここで申します主要道路というのは国道や県道あるいは市町村道の中でも主な大きな道路についてを主要道路と定義しまして、それらの舗装率を比べておりますが、やはり大きな道路ですので、ほとんどが舗装されているということを示しております。

続きまして、14ページに入ります。こちらの方には医療施設というものを人口10万人当たりの指標ということで示させていただいておりますが、医療につきましては新潟県全体で保健医療福祉圏といった医療福祉サービスの構想がございまして、それに従う形で今この8市町村の中でもそれぞれいろいろな施設が整備されているという現状がございまして、その中で長岡を中心都市とする長岡保健医療福祉圏というものと、もう一つ、8町村のうちで見附市、中之島町、三島町は三条保健医療福祉圏ということで、

長岡保健医療福祉圏とは別の圏になっているという現状がございます。福祉圏の説明については15ページの方に提示させていただいております。

続きまして、16ページでございます。これも差し替えさせていただいたページでございます。財政の歳入と歳出の構造についてでございます。財政につきましては、非常にいろいろな問題がございます、今回比較的直感的にイメージしやすい歳入や歳出の中身といったものがわかる資料のみを提示させていただいております。その中で、歳入構造の中で依存財源という市町村の方で自らなかなか自由に取り扱えない財源の割合が高いという傾向が見られるんですけども、世の中一般的には市町村税のような自主財源の割合が高いほど財政運営が自主的あるいは自立的に行うことができるというふうに言われております。

続きまして、17ページの産業の概況を示しておりますが、ここで提示させていただいたのは次のページにグラフがございます。こちらは、産業別の従業者の割合で示させていただいております。これを見ますと、各々の市町村の方でそれぞれ特徴的な産業が従業者数の割合になっているということが見てとれるかと思えます。一つ一つについては、少し割愛させていただきます。

続きまして、19ページが農林水産業の概況でございます。ここでは指標としまして1戸当たりの農業粗生産額ということで、8市町村の中では中之島町が1戸当たりの農業粗生産額が多いという傾向が見られます。

続きまして、20ページが製造業になっておりまして、同じような整理の仕方をしているんですけども、ここでは1工場当たりの工業製品の年間出荷額を比較しておりまして、越路町が8市町村の中では一番大きな値となっているという傾向でございます。

続く21ページでは商業について1商店当たりの年間販売額で示しておりまして、傾向としては長岡市が突出しているという傾向でございます。

続く22ページ、23ページが観光についてでございますが、こちらは調査されております観光動態の調査の結果ということで、その中で拾われている人の来客数といいますが、入り込み客数というものについてを整理しております。こちらでもそれぞれの市町村さんによって特徴的に人の入るものが異なっているという傾向が見られます。ちなみに、一番この地区で入り込み客数が多いのは長岡まつりだということが表の方からも読み取れます。

続く24ページに学ぶという項目について、1、教育、文化施設の整備状況というものを表で整理させていただいております。これを見ますと、博物館や体育館あるいはレクリエーション施設といったものは、何かしら各市町村さんの方で整備されているという状況が見てとれます。

続いて、25ページでございます。こちら交流するということで8市町村間の移動の状況を整理しております。この表の見方でございますが、表の上の方に通勤・通学地ということで横並びで左から順に長岡市から見附市まで書いてありますが、こちらが通勤・通学地になりますので、見方としましては、今四角書きで見附市を例に少しとらせていただいておりますけども、上の1,100という数字があります。これ

は、長岡市から見附市への通勤、通学者というふうになります。ですから、その次の段、1万4,612という数字がございしますが、これは見附市から見附市ということで、見附市内での通勤、通学の移動というふうに見ていただきたいと思います。そのように見ていただきますと、例えば越路町ですと、越路町から長岡市というのが3,565人、それに対して越路町から越路町というのが3,345人ということになりますので、越路町からですと町内で動いていらっしゃる方、通勤、通学されている方よりも長岡市に通勤、通学されていらっしゃる方の方が多いと。同じことが三島町にも見てとれます。

説明最後になりましたが、地域資源ということで整理させていただいております。先に大きな27ページの表の方をご覧くださいと思います。大変小さな字で恐縮でございますが、こちらの方が大分類、中分類、小分類と左側に載せておりますが、こういった地域イメージの構造分析の際に使われます一つの目安としての分類に基づきまして、各市町村さんのそれぞれの地域資源にどのようなものがあるかというものをホームページとか、それから市勢、町勢要覧、そういったものから拾い出させていただきまして項目に当てはめたものでございます。これらにつきましては、ぜひ皆様にご意見をいただきたいところでございますが、その代表的なものということで26ページの方に上の表の方で少しピックアップさせていただいている状況でございます。また、これまでの8市町村の相対的な個性といったものの一つの目安として、総合計画におかれまして提示されておりますキャッチフレーズですとか、市町村の要覧の中で挙げられておりますサブタイトルといったものをそこで提示させていただいております。

資料2の中身の説明については以上でございます。

豊口委員長

どうもありがとうございました。大変内容も豊富な資料でございますけれども、ただいまの事務局からの説明につきまして何かご質問等がございましたらお願いいたします。

お願いいたします。

米持委員

三島町ですけれども、14ページをちょっとご覧いただきたいと思いますが、ここに医療施設の県の二次保健医療福祉圏というのがございしますが、三島町がここに入っていないということでございすけれども、うちはたしか長岡保健医療圏域に入っていると思いますけれども、その辺どうでしょうか。

事務局（高橋次長）

申し訳ございません、今すぐにちょっと手元の資料で確認できませんので、後ほど確認をした上でお話をさせていただきます。申し訳ございません。

豊口委員長

じゃ、そういうことでひとつよろしくご了承いただきたいと思います。

ほかに何かございませんか。

はい、どうぞ。

熊倉委員



越路町でございますけれども、訂正とちょっとお願いを申し上げたいと思うんですが、一番最後の地域資源の一覧表の中の越路町の下から6行目でしょうか、「三波春男」というのがございますけれども、これ「男」になっておりますけれども、「夫」ということで訂正をいただきたいと思います。この「(出生)」というのは要らないんじゃないかなと思いますね。

それから、今日差し替えいただきましたんですが、16ページの財政の歳入・歳出構造でございますけれども、せっかく差し替えいただくのであるならば、これ平成12年度の恐らく決算でございますが、新しい13年度あたりの数字で出していただければありがたかったかなと、こう思っております。

以上です。

事務局(高橋次長)

承知いたしました。そのようにいたします。

豊口委員長

どうもありがとうございました。

ほかにございませんか。よろしいですか。

24ページで、これはちょっと資料が古いんでしょうけども、長岡市のところで大学に短大1となっておりますけど、これ大学は3になっているんです。こちらの資源の方では直っておりますので、修正していただいた方が良くと思いますが。

事務局(高橋次長)

はい。申し訳ございません。

豊口委員長

ほかにございませんか、お気づきの点。よろしいですか。

「なし」という声あり

豊口委員長

それでは、また後ほど何かありましたらお願いしたいと思いますが、続きまして2番目の住民アンケート調査、これ事前調査の結果につきまして事務局からご報告をお願いしたいと思います。

事務局(竹見班長)

事務局から説明をさせていただきます。

その前に先ほど三島町の方から二次保健医療の福祉圏ということでご質問がありましたけども、三島町は長岡の方に入っておりますので、訂正させていただきます。

それでは、住民アンケート調査ということで資料ナンバーの3番をご覧いただきたいと思います。地域アンケート調査実施に向けての事前調査(住民アンケート)結果及び経過資料というものでございます。そちらのまず1ページをご覧になっていただきたいと思います。こちらの1ページは、新市将来構想策定手法の流れということでご紹介をさせていただいております。こちらの図は、新市将来構想がどのような調査や分析という流れが出てくるかということでご紹介をさせていただいているものです。グ

レーで囲っている部分が調査、分析ということです。その中でも今回現況調査を発表させていただきまされたけれども、その現況調査、それから今後有識者ヒアリング調査とか、それから今回の住民アンケート、水色で囲ってありますけれども、今回は住民アンケート、事前調査というものを前回は説明させていただいて実施して今日発表させていただくということになっております。住民アンケートにつきましては、下に矢印で行きますように地域アンケート、いわゆる本調査につながるものでございます。それから、住民アンケートの今回の事前調査をいろんな分析をしまして、今後まちづくり市民会議、いわゆるまちづくりワークショップが今月から開催されますが、そちらのワークショップの方にも資料として提示をさせていただきたいという流れになっております。

それでは、2ページをご覧ください。今日は結果を発表させていただく前に事前調査の概要をご確認させていただきます。まず、(1)の調査目的でございますけれども、新市将来構想にあたって地域の総意ではないがということで、一般住民の皆様方の各属性の志向を把握すると、いわゆる傾向をつかんでいきたいということです。それで、結果を見て本調査、いわゆる地域アンケート調査の際の問題点を見つけていくと、見直すべきところは直していきたいということです。それから、ワークショップでの議題を提供していくということです。

調査方法につきましては、調査員が直接対象者のお宅を訪問させていただいたということです。調査趣旨とか内容を説明させていただいた中で直接回収したということです。

(3)が対象者およびサンプル数と抽出方法ということで、こちらに書いてございますように各市町村30名ということで、計240名の抽出をさせていただいているということです。

それから、実施時期は、非常に短い期間でしたけれども、3月の下旬にさせていただいて結果を解析したということです。

これからコンサルタントの方でご説明をさせていただきますけれども、これはあくまでも傾向ということでご説明をさせていただきます。実際のアンケートにつきましては本調査、いわゆる7,000名の本調査の方の結果をもって地域の総意ということにさせていただきたいと思っておりますので、今回はあくまでも傾向ということでお聞きしていただきたいと思っております。

それでは、コンサルタントの方からご説明を申し上げます。

コンサルタント(金子)

座って失礼させていただきます。

4ページ目をあけていただきます。3ページ目は属性の集計になっております。その4ページ目の右上のところに設問1と書いてありますが、どのページについても調査票の何番の設問なのかということを示しております。なお、資料4の20ページからのところに、これの修正が多少加わっていますが、事前調査時の調査票の形で同じ設問がありますので、あわせてご覧ください。

設問1の地域への愛着・満足度・期待というものについては、1から13までのこの円グラフのとおりです。地域に対する愛着は高く、現在の行政サービスに対する満足も一定あり、かつ今後への

期待もあるということで、世代による回答差の傾向の差というものはなくて、若い世代の愛着や期待も十分にあるという、そういう結果が現在のところ出ております。

5ページにいきます。5ページは合併に対する期待と不安と、どういうものがあるかということで、合併に際して期待することでは、「組織の効率化などで行政経費を削減する」や「斬新なまちづくりや行政サービスを実施する」、そういうものが回答が高くなっております。また、一方で合併に際して不安に思うことは住民の声が行政に届きにくくなる、あるいは中心部だけが栄えて周辺部が寂れてしまうと、そういったような答えが多いということです。

地域差の傾向としては、住民の声が行政に届きにくくなるという、そういう不安面での回答では、長岡市以外での回答がやや高く、それから中心部だけが栄えるのではないかと、そういう不安については長岡市と三島町以外での回答が高いということが今のところではみえます。

6ページに移ります。設問3、市町村合併に対する前提的な認識、これは合併の是非を聞いている訳ではございません。あくまで将来構想をつくる時に合併に対してどういう傾向のお考えなのかということをお聞きした質問でございます。この質問に対して今全体から伺えるのは、情報がはっきりまだ全体としてつかんでいただけていないということで、現時点ではいろいろなことを判断していくことができないということが結果として出ております。それを表しているのが一番上の合併への動きをよく知っているか知らないかという質問に対しては、知らない人と知っている人というのがある程度分かれてくるんですけども、だんだん下の市町村規模は大きい方が良いか小さい方が良いか、あるいは生活環境の改善が期待できるか、悪化を懸念するかというような質問に対しては、どちらとも言えないという答えが多くなっております。若い世代や女性ほどやはり合併への動きに対する認識が低いですので、今後の広報とか、あるいは啓発施策の重点的な考え方として持つ必要があるというふうにいえると思います。

7ページに移ります。ここがちょっと分析が前回もご説明が非常に足らなかったところなんです、これは個別の行政のテーマに対して現状の満足度はどのくらいか、そして今後の重要性はどのくらいと考えるかということに丸をつけていただいたものです。ここに書いてある数値というのは、その答えの平均点をとりまして、その平均を50としたときにどういう位置にその個別テーマの位置づけが来るかということ、それを見たものです。そして、この表は現状の評価での点数と今後の重要性の認識ではどういう点数かを見て、その点数差が大きいほど今後の課題度が大きいというふうに整理をしたものでございます。この中については個別にご覧いただきたいと思っております。

その結果をさらにわかりやすくしたものが8ページにございます。これは、まず設問の4を産業振興やハードの整備、そういう関連性の項目でまとめたものが8ページ、そしてソフトや行政運営、そういったものの関連をまとめたものが9ページというふうになっております。

この図の見方ですけれども、さっき言いました真ん中が50という考え方、これは偏差値といいますが、それを両方に軸をとります。横の軸を今現状の評価、現状の満足度、縦の軸を今後の重要性というふうに置いております。そうすると、赤字で書いてありますけれども、右上の枠の上の方に行くほど相対的

に見て現状の評価が高く将来の重要性も高いというふうに認識している、あるいは左上の方にいく答えがもしあるとすると、それは相対的に見て現状の評価は低いけれども、将来への重要性は高いと感じていると。これは希望とか期待と、そういう項目であるというふうに読んでいけます。また、右上の方は両方とも現状も将来も強いですから、それは地域の中では強みというふうに読んでいくと、そういうふうなやり方で今後分析をしていきます。この長岡地域においては河川や森林などの自然保護、美しい町並みや景観づくり、上下水道や集落排水施設の整備、充実、そういったところが強みであり、そして希望としては地場産業の振興や企業誘致などによる製造業の振興とか、あるいは情報産業など新しい産業や企業の育成、そういったものが希望や期待として出てきているということです。

9ページにいきます。同じような形でソフト、行政運営関連面を見ますと、防犯、防災対策、それからごみ回収、分別、リサイクル化、それから生活習慣病予防、保育所や幼稚園、子育て支援施策、そういったものが現状も満足度が高く、そして将来の重要性も高い項目、そして将来に期待しているものとしては地域の医療体制あるいは老人障害者福祉施設やそういうサービス、関連サービス、それからバリアフリー、プライバシーや個人情報保護、そういったものの推進というものに期待がされているという傾向が現状では見てとれます。

10ページにいきます。ここでは分析のやり方は同じようなやり方ですけども、設問の内容は、これは地域のパーソナリティと書いてありますが、いわゆる地域らしさ、地域の個性を言葉でどういう地域が当てはまるか、あるいは今後はどういう個性の地域になりたいかということをお聞きしたものです。上の方にいくほど当然ありがたい姿ですので、先ほどの行政のテーマとはちょっと違って、今も強く将来もそうありがたいというものがなかなか無いんですが、将来的には積極性がある、あるいは向上意欲がある、あるいはチャレンジ精神がある、そういった積極面を前に出していきたいという意向が伺えます。また、現状ではどういう評価があるかといいますと、人情に厚い、それから慎重であるといったような、あるいはおとなしいといったようなことが見れます。この二つのことから、どういう人柄かという、この長岡地域の方は非常に実直な人柄だということが読み取れると思います。

11ページにいきます。次のこの5の(2)の質問というのは、どんな地域、今どういう地域であるかということでもとめたものです。全体としては事故や災害、犯罪の少ない安全、安心のあるまち、それから自然が豊かで環境問題に取り組む地球に優しいまちと、そういったところが今の評価では一番多くなってきています。また、個別の市町村の傾向では、トップはいずれも安全、安心のあるまちなんですけれども、2番目についてはその下のところに書いてあるような結果になっております。

12ページにいきます。それでは、同じ質問で、今後は、じゃどういう姿の都市でありたいかということで、やはりグラフにお示しするとおり産業が盛んで雇用環境の整った働きやすいまち、あるいは子育てや高齢者、障害者福祉が充実した高福祉のまち、それから医療や健康増進に熱心な健康長寿のまちと、そういったようなまちづくりというものが望まれているということがわかります。

13ページに移ります。それをやはり先ほど言いましたありがたい姿を縦軸に、それから現状の満足度を

横軸にとったものがこの13ページの結果になっております。

それから、14ページに移らせていただきます。ここでは地域の資源を選んでいただいて、その評価を聞いております。分析の方法は、やはり縦軸と横軸の整理をしております。横軸には大切にしたいと、ですから右に行けば行くほど大切にしたい度が高いと、それから縦軸については上に行けば行くほどすぐれていると感じている度合いが高いということで、相対的に見てすぐれていて、かつ大切にしたいということ調査をしていただいた皆さんが感じているのは花火でありますとか、あるいは米作、それから山や森の緑、それから信濃川などの河川、それから棚田を含む田園風景とか、あと酒造、そういったものが地域の人々が自信を持っていて、将来もそれを持ち続けていきたいといったようなものというふうに読んでいくことができます。

15ページに移ります。この設問6では地域の人柄、プロフィールといいますが、それを調べる質問です。これは、性格分析といったような意味がありますけれども、これはどこに行くのがいい結果ということではなくて、いろいろな方がいらっしゃいますから、どういう特性があるかということを見極めて、それを生かす材料にするということを考えております。これまでのいろいろな調査で今人間のこういうコミュニケーションのプロフィールという性格型は、大体4種類ぐらいにここの中では大きく分けられるのかなというふうに考えています。その4種類というのが16ページのところに書いてあります。後で詳しく読んでいただければわかるんですけども、相談型という方は、これはいわゆる情緒を非常に重視する方、調和性、それから柔軟性を重んじてほかの人へ援助的であるということです。競争心をあおったり、脅威を与えない、そういう優しい人です。それから、分析型というのは、これはいわゆる実証的な方法で問題の解決をしていこうとしたりするタイプの人が多いということで、物静かな印象を与えたりする人が多いです。それから、説得型というのは、これはここに社交的でダイナミックなコミュニケーションと書いてありますけれども、いわゆる積極的に自分のアイデアや考えを言ったり、直ちに行動に移したりするという、そういう積極的な人です。それから、指導型というのは、これは積極的な人ですけども、ここに青字で書いてあります意思決定が早くて短時間で物事を処理したりする、集団の中でややリーダー的な役割になったりする人が多かたりするというタイプで、15ページの上の図の真ん中に円がありますけれども、青い円の中に入ってくると、これはいろんなコミュニケーションのタイプに行けるということで、そういう人と交流をしたりする柔軟性が高い人たちというふうに言われております。これを全国的な評価として今回この長岡地域でやらせていただいた結果としては、相談型の地域であるということが言えます。つまり情緒を重視して、調和性や柔軟性を重んじる、そういう地域であるということが言えます。これを先ほどのマトリックス分析ではないですけども、やはり全体の平均を50としたときに、各市町村がどういう方向に位置づけられるかというものを見たのがその下の図です。このまとめがこの15ページのわきの方に書いてありますけれども、越路町は、これはコミュニケーションの柔軟性が高いか、あるいは説得型傾向が強いということで、これは発言が活発な、そういう動きのある性格をあらわしていると、あるいは山古志村、三島町、それから小国町は更に地域の中で優

しさのある地域であるということ、それから長岡市、見附市、中之島町については、この地域の中ではやはり町の生活をされている方が多くて、そういう方というのは非常に理論的あるいは実証的な志向を好みますので、そういう分析型傾向が強いということがわかってきています。こういうものを使って将来構想をつくっていくというふうに考えております。

最後ですけれども、17ページに今までの調査の、これはあくまで今回分析の例としてやってみた結果として調査結果をまとめております。一番下の赤字のところには本資料の留意点と書いてありますけれども、これは方法の紹介例として今日ご確認いただきまして、これを地域アンケートの方に今後生かしていきたいと考えています。

以上でございます。

豊口委員長

どうもありがとうございました。非常にわかりやすくまとめていただきまして、説明を加えていただきまして、さらに理解ができたというふうな気がいたしておりますが、先ほどの地域の特性、それから今の住民のアンケートの調査を踏まえまして、少しご意見等をいただいてまいりたいと思っております。特に地域特性につきまして何かご発言等がありましたら。今日は特に地域から代表という形で参加されている方もおられますので、ご意見をいただければと思っております。

はい、お願いいたします。

野田委員

小国町ですが、この事前のアンケートをとられた中で、対象者の抽出方法というのはどのようにして行われたんですか。

委員長（豊口 協）

事務局お願いいたします。

コンサルタント（金子）

これは、2ページのところでございます。これは、今回の調査は地域の総意を伺うアンケートではありませんので、まずこういう2ページの真ん中辺にあります男女、年齢、市町村という、そういう属性でもって各5人ずつ選び出そうと考えて240名を調査をしたということです。抽出方法は、訪問留め置き式といたしまして、調査員が直接そのお宅に訪問をして書いていただく方式です。調査員というのは、これはこの地域の人ではありません。その人が伺って書いていただいたものですが、どこでもいいから行くというわけにはいかないので、この下の方に書いてありますエリアサンプリング法というこれちょっとまた難しい方法なんですけど、使います。まず各市町村のいろいろな地区がありますが、それをたくさん集めてきます。その中で自由に市町村あるいは字を選びまして、その地区内においてさっき言いました5名をアンケートさせていただくという方法で各市町村30名ずつ集めさせていただきました。

豊口委員長

ということでご了解いただけましたでしょうか。

野田委員

方法として皆さんは皆さんなりにきっとお考えなんだろうけれども、もう一步踏み込んだ具体的な例えばという話ができるんですか。

豊口委員長

もう少し詳しく実態について説明がしてもらえないだろうか、こういうことでありますか。

野田委員

男女の別とか、年齢別とか、そういうのはないのですか。

コンサルタント(金子)

男女の別、年齢については、ですから今回は地域の総意を聞くアンケートではありませんので、この2ページにお書きしていますように、まず男女、つまり小国町であれば小国町の方で年齢が20代の方で男の人5名を集める、そしてまた小国町で20代の方で女性5名集めるというふうにして30名を集めている。その集める場所はどこかという方法なのですが、それについては例えば、すみません、私越路町の出身なんで、ちょっと越路町の字名でしかわからないんですけども、例えば私は岩塚というところなんで、岩田とか、沢下条とか、いろいろあります。そういうものをまず分解をします、地区を。そして、その中で乱数という数字を引っ張ってくるような方法なんですけれども、自由にくじを引くような感じで当たるところ、それが例えば沢下条であるというふうになると、その沢下条のところ調査員が行きまして5名を選んで調査をしていくというふうにして1市町村30名分集めたという方法で今回240票集めてみたらこういう結果だったということで、何回も私ちょっと言っていますけれども、これは地域の総意を集めたということではないんです。最初に属性を決めて、その属性の人はどういうことをお考えなのかということ調べるために採ったものですので、選び方がもう最初に男か女かが決まっているというふうにご理解いただけるといいと思います。

豊口委員長

よろしいでしょうか。

野田委員

はい。

豊口委員長

ほかにございせんか。地域資源の例えば問題であるとか、それから地域の特性についての問題、これはこれからの議論の中心になっていくだろうと思いますけれども、こういう地域特性が抜けているんじゃないとか、こんな重要なことが記載されていないとか、いろいろとご意見がとおりになるんじゃないかと思いますが、お気づきの点何でも結構でございますけれども。最初の地域の現況調査票の最後の27ページ、ここに一覧表が入っておりますし、26ページにはその中から特に代表的な特性について記載されておりますけれども、この辺問題がもしなければいいと思いますが。見附市の村上さん、何かございせんか。住民代表としてこれは抜けているぞというようなご意見がございましたら。

村上委員

ちょっと質問ですが、結果ですので、具体的に質問のしようがないみたいな部分があるんですけども、これはあくまでも総意ではないが、本調査の際の問題提起というふうな目的が事前調査の中に明記してありますけど、これが具体的に本調査へいく場合はどういうふうな形、次の協議事項で入ってくるとは思うんですけども、ちょっとその辺が見えないというんですか、これの事前調査が本調査の際の問題点提起というふうな形なのか、その辺がちょっと見えないので、ご説明が願えたらと思います。

事務局（竹見班長）

今回実際に調査員が出向きましてご説明をさせていただいた中で調査票に書いていただいたということなんです。特に調査をしていく中で例えば書かれる調査の実際対象になった方々ですね、例えば回答しにくいとか、それから回答率が非常に悪いとか、非常に空欄の欄が多いとか、そういうことでありますと問題自身にちょっと課題があるんじゃないかなと、そういった部分があれば、それは訂正して本調査の方に例えば設問を変えていくとかというふうな形で考えていたんです。それで、また資料、次の項でもご説明させていただこうと思ったんですけど、実際今回の事前調査を行った結果、特にそういった大きな問題というのはなかったという結果でありました。それで、具体的には、もし直すとしたらちょっとレイアウトを変えていったりしていきたいなと思っていました。ただ、今回アンケート調査の中で、資料ナンバー4の方にちょっと飛ぶんですけど、ちょっとごらんになっていただいて、24ページと25ページに、こちらの方に設問の中で8市町村の代表的な地域資源や特性ですということで、今後も大切にしたいものは何ですかとか、それからすぐれているものは何ですかという、そういった質問をさせていただいております。1番から27番までちょっと代表的な地域資源として挙げさせていただいたんですけど、この部分でもっと皆様方の方からこういった資源も入れておいたらどうなのかとか、それからこの部分じゃなくてもっと別なのがいいということであれば、その辺も今委員長さんからお話あったように、特性とか地域資源のことを今いろんなご意見をいただいた中で反映させていただけるものは反映していきたいなというふうに考えておりましたので、よろしくをお願いします。

豊口委員長

よろしいでしょうか。

村上委員

はい。

豊口委員長

それじゃ、住民代表の方にちょっと一言ずつお伺いしてまいりたいんですが、中之島町の池田さん、何かございませんか。今までの2項目の説明の中で特性であるとか、そういったことについてこういうものが抜けているとか抜けていないとか、もしご意見がありましたら。

池田委員

抜けていることはないと思うんですが、非常にやっぱり実態に私も合っているなという気がしておっ



たんですが、それぞれの実情がやっぱり複雑化しているなど私は感じております。

豊口委員長

北村さんですね。はい、お願いいたします。

北村委員

合併を前提にして話し合いを持っているのに、決して後退する意見じゃないんですけども、合併をしたくない人ということ的前提にしたアンケートというのは、これはやはり合併をするということ的前提にしてやっているわけですので、これはもちろん前向きに考えて言っているんですけども、したくない人の意見というのをやはりある程度吸い上げないといけないんじゃないかなと思うわけです。その方法というのは私もなかなか難しくって言えないんですけども、何かいい方法はないものでしょうか。

豊口委員長

どうでしょうか。非常に重要なご意見だろうと思いますが。

事務局（高橋次長）

今回の将来構想につきましては、合併をしたときにどういうまちづくりができるか、どういう町を目指すかということを出すための将来構想だという理解しております。したがって、特に合併をするかしないかの個別の議論をアンケートでひとまずとって、そこで合併をしない人の意見を吸い上げていくということは、将来構想においては現時点では考えておりません。したがって、将来構想についてのご意見をいただくアンケートとしましては、賛成か反対かというよりは全体を含めた方たちの中から7,000人という多くの方のご意見をいただいて構想に反映させていきたいと、こういう考え方でございます。

豊口委員長

という考え方ですが、ほかにご質問、はい、お願いいたします。

小池さん。

小池委員

確かに標本数は240から7,000になるわけですから、設問の項目がどういうふうになるかわかりませんが、今回の予備調査から本調査に入るわけですので、どういう設問の仕方をこれから考えられるのか、これを基本にしてやられるわけですから、その辺の考え方を聞かせていただきたいということと、それからこれは何か社会心理的なテストと言うんですかね、そういうものを使っておられるような気がするんですが、それらの信頼度などということも考えねばならないと思うんですけども、同時にみんなが集まって話し合いを進めてきて、これからの合併に当たって何々町あるいは何々市はどういう役割がいいのかとみんな話合って、みんなというわけにはいきませんが、それぞれの市町村で研究会とか、あるいは栃尾市でも立ち上げられたというふうに聞いておりますが、三島町ではビジョン策定委員会というようなものを43名の構成でやっているわけです。これもいろんな学識経験者とか、あるいは行政関係の例えば教育委員会あるいは農業委員会というふうな方々からも入ってもらっていますし、各種団体あるいは地域代表と、こういうふうな方々が本当に話し合って詰めた、これからやがて私どももまとめ

ていこうという方向で進んでいるんですが、そういうものの信頼度とこういう調査による信頼度というのはどういうふうに考えられるか、その辺のことを聞かせていただきたいし、さらに私どもがやっているようなそういう一つのまとまりのある考え方を提示したものをどのように活用いただけるのか、この辺のこともご検討いただいているのかどうかお聞かせいただきたいと、こう思っているんです。

以上です。

豊口委員長

どうもありがとうございました。じゃ、今のご質問について要点だけお答えいただけると思います。

事務局（高橋次長）

全般的なちょっと話をさせていただきたいんですけども、アンケートにしましてもできるだけ多くのサンプル数があればいいというのはもちろんそのとおりだと思っております。それから、個別の合併の議論につきましても多くの住民の方から直接お集まりいただいて、できるだけ多くの期間をかけて形のあるものにしていくということも大事なことだろうと思っております。ただ、現実的には何万人もの人間を、何万人といえますよりも10万人以上の人間を集めるということは不可能なわけです。したがって、一つの方法としては、先ほど申していますように無作為抽出のアンケートによって大方の傾向はつかむことができるだろうということが一つでございます。

それから、いま一つは、ワークショップというものをこれからまた説明をさせていただきますが、ワークショップの構成メンバーにつきましては、それぞれの自治体から推薦をいただく委員、恐らくはその代表の中に三島町さんであればまちづくりビジョンの検討の方たちがお入りになっていると思っております。ほかの市町村も同様にそういったグループがあれば、行政の中でそういった方たちを代表に選んでいると思っております。さらに、一般公募枠というのを設けておりますので、まちづくり関係に非常に熱心に考えておられる方は、行政側からのワークショップのメンバーに仮になれなくても一般公募という形で参加をしていただけるというふうに思っております。したがって、事務的にアンケート等で出てくるものと、それから直接ご意見としてお聞きするものと、それらをあわせましてさらにそれを小委員会の方に諮らせていただいて、小委員会の方は行政側、それから場合によっては議会、住民代表が入っておるわけですので、その考え方の中で素案をつくっていただいて、さらに協議会の本体の方へ諮っていくという手順で考えておるわけですので、もちろんさらに多くの人数、多くの期間をかけてやるという考え方もあるわけですが、現時点ではこういった考え方で進めればある程度の成果は出せるだろうと事務局としては考えております。

以上でございます。

事務局（北谷事務局長）

事務局長の北谷ですけども、補足させていただきますが、7,000人の本調査はこの後資料ナンバー4で説明をさせていただきます。

それと、三島町さん、あるいは栃尾市さんで住民の方も交えて住民の方と行政とまちづくり懇談会な

どをやられているようですけれども、例えばこのアンケートで、今この予備アンケートでも例えば信濃川云々あるいは自然を守るという意識が高い、将来的にもそうなる傾向があるというページがありましたけれども、例えば山古志村さんで言えば棚田を残そうという、そういうアンケートの結果が出たとすると。この後、このアンケートもそうですが、各8市町村には長期構想、総合計画というのが、総合発展計画、呼び方は別にして、そういうビジョンがあるわけですよね、現在。その中で例えば自然環境を守りましょうという、そういう住民の皆様、ワークショップあるいはアンケートでそういう高い結果が出たら、各市町村は今持っている計画の中に合致するもの、こういったものも適用していくと。今後アンケート、住民の方の意見はもちろんあります。それを踏まえて我々行政側も長期ビジョンの担当者も入るわけです。その辺をうまく整合性をとって一つの冊子にしていくと、こういうことを考えておりますので、ご了解いただきたいと思います。

豊口委員長

今日は最初のこれは序の口の報告ということになります。さらに広がっていくと思うんですが、山古志村の高野さんですか、何かご意見がありましたら。

高野委員

次のナンバー4で説明があると思うんですが、これ7,000というんですけれども、人口比率でやるのは仕方ないかもしれませんが、この表によると山古志は51枚の配布ですが、今回事前にやったこれは各市町村とも同じ枚数だったので、こういう5ページのようなデータが出たと思うんですが、もう少し数をふやすわけにはいかないかというのが1点と、それと各市町村ごとにこういうグラフはつくっていただけるかどうかというのをひとつ。

豊口委員長

事務局、いかがですか。

事務局（竹見班長）

最初のご質問なんですけれども、7,000人のアンケートの抽出方法なんです、本来であれば例えば8市町村が合併したと想定して8市町村分の住民基本台帳をすべてそろえる必要があるんです。その中で本当に、先ほど乱数と言いましたけど、その中から30万5,000人の中から抽出していくというのが一番精度の高い方法なんです。でも、それを今回はできませんので、今回の2段階抽出法と言っているんですけれども、それはまず1回各市町村で抽出しましょうということなんです。こちらの資料ナンバーの4の方についてしまいますけれども、まず全体で信頼度を考えたりしたときに、じゃどれぐらいの有効サンプルあるいは配布サンプルが必要かということは、資料ナンバー4の真ん中の表の左側の方に書いてございます。上から相対誤差とか、信頼度とか、一番下の方に有効サンプル、配布サンプルということで、計算上は有効サンプルは3,324、配布サンプルは6,648ということで、それを丸めまして7,000ということにしております。それから、先ほど申しましたように8市町村分のすべての住民基本台帳を一つにして抽出するということはちょっと不可能ですんで、右の表のようにありますように配布サンプル数

を人口構成比で掛け算をさせていただいて、一番右の方にありますような配布枚数ということになっているのが現状でございますので、その辺ぜひご理解をいただきたいと思います。

それから、2番目のご質問ですけれども、各市町村さんでこういった表をご必要であれば、それもデータとして整理してご提示できると思います。

豊口委員長

よろしゅうございますか。

それじゃ、最後になりましたけど、長岡市民の代表で朝日さん。

朝日委員

今の段階ですとちょっとこの調査項目自体にこういうものをつけ加えたらいいんじゃないかとか、そういう意見は特にございません。

豊口委員長

ありがとうございました。

それでは、次のまだ議題がたくさん残っておりますので、移らせていただきたいと思います。3番目の地域アンケート本調査につきまして、これも事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局（竹見班長）

座ったままでご説明をさせていただきます。

資料ナンバー4をご覧ください。地域アンケート調査、本調査概要ということでご説明をさせていただきます。先ほどご説明させていただきました事前調査の結果を踏まえて、もし問題があれば設問のこともいろいろ考えて変更しておこうということで考えてはいましたけれども、事前調査に特に問題なかったということで、設問につきましては当初のまま進めたいなと思っています。ただ、レイアウト上ちょっと答えにくいとか、そういった部分がありましたら、それにつきましては変更していこうということです。基本的には事前調査のアンケートの調査票を使用しようということです。

それから、(1)の調査目的なんですけど、前回の事前調査というのは地域の総意ではなかったんですけど、今回は本調査でございますように地域の総意としての一般住民の意向を把握するというので、今までご説明させていただいたいろんなグラフとか、マトリックス表がございましたが、7,000名の調査結果が先ほどご説明したような結果として出てくるということです。

それから、将来構想素案作成時の裏づけデータとしての活用を図るということで、将来ビジョンを作成するとき相対的に見てどういうものが今すぐれていて、今後も大切にしたいものは何かとか、そういったものを出した中で活用していくということです。

それから、3番目のポチなんですけど、合併協議の進捗をアナウンスする広報手段としての効果を考慮するというので、もっと合併に対しても多くの方々からご興味を持っていただくと、そういった目的もあります。

それから、(2)の調査方法でございますけれども、郵送調査ということです。調査対象者を構成市

町村の合併の担当の皆様方からいろいろご苦勞を願いたいと思っているんですけど、住民基本台帳から無作為抽出を、あるいは系統抽出法により抽出し、調査票を直接対象者に郵送、それから対象者の方が記入をされてから調査票を返送していただくということです。上の無作為抽出法というのは、もうコンピューターにプログラムが含まれていて、自動的に抽出されるような市町村の方です。それから、系統抽出法というのは手作業をされるところの市町村から系統抽出法という形で抽出していただくということです。

それから、(3)の対象者およびサンプル数ということで、対象市町村居住の住民の方々を対象とします。母集団というのは、分母になるのが約30万人ということで、先ほどご説明しましたように、下の表にありますように有効サンプルというのを3,500というふうに考えております。これは、発送を7,000とした場合の回収率50%を想定しています。実際の配布につきましては、合併の市町村の人口構成比を基本として、右の表に書いてございますように人口構成比ごとに配布枚数を掛けて決定していくというようなことです。なお、上から長岡市が4,425、見附市が996、栃尾市が565、中之島町が293、越路町が327、三島町が174、山古志村が51、小国町が169で合計7,000ということです。そういった形で配布させていただいて、回収率を50%という形で考えています。

それから、(4)の実施時期のスケジュールということで、案としてご提示させていただいております。既にもう構成市町村の皆様方にはコンピューターあるいは手作業の中で抽出作業を依頼をさせていただいております。早ければ来週の15日ころに各市町村さんから封入あるいはラベル張りをしていただいで発送していただくと。途中督促状も構成市町村の皆様方から発送していただいで、回収率を上げたいというふうに考えておまして、記入期間は今月いっぱいぐらいを想定しています。回収につきましては5月以降、それから今後回収後分析する訳ですけども、早ければ5月中旬かなと思っています。ただ、解析等が非常に時間もかかりますので、5月いっぱいぐらいかかる可能性もございます。

それから、19ページでございますけれども、アンケート調査結果の新市将来構想への活かし方ということで書いてございます。こちらの上の方からちょっと読ませていただきますけれども、これまでの政策、基盤整備等の満足度や地域の基本姿勢だけではなくて、地域の人間性とか地域資源の価値観などの地域らしさ、そういったものを将来構想に活かせればなということで、こういったものを活かすということなんです。

下の方はアンケート調査の設問の意図と、それから導き出す内容ということで、各設問にこういったものを導き出そうかということが書いてございます。それで、真ん中の青色で書いてございますけれども、このアンケートでやはり重要なものは今の地域像、なりたい地域像、それからなるべく地域像を将来的に抽出できるような形での意図を狙っています。下にあります図なんですけれども、今NHKでも「こころ」という番組をやっていますが、地域のこころということでハートのマークが書いてございます。それから、右下の方に緑で地域の資源、こういったものを将来構想にぜひ活かしていけたらなということで、この四角の枠の中に書いてございますように、そういった地域のこころ、あるいは地域の資

源を地域の性格や個性、それから地域、都市のイメージ、生活基盤の充実、それから地域資源活用の方  
向性をこういったものからビジョン作成の材料とさせていただいて、皆様方からいろいろご討議いた  
だいたり、ご意見をいただいたりしてこういったもので活用していくということです。

以上です。

豊口委員長

ほかの添付資料はよろしいですか。

事務局（竹見班長）

20ページ以降は前回お出しさせていただいた調査内容です。事前調査の内容と同じ内容でございます  
ので。

豊口委員長

じゃ、後ほどまた詳しくご覧いただきたいと思います。今の資料4に基づきます事務局からの説明  
につきまして何かご質問がありましたらお受けしたいと思います。

豊口委員長

一つよろしいですか。これ回収率は何%位で良しとするというふうに考えていらっしゃいますか。

事務局（竹見班長）

こちらに書いてございますように有効サンプル一応3,324ということなんですけど、できれば50%を目  
指したいなと考えております。

豊口委員長

よろしいですか。どうでしょう。回答率半分ぐらいを希望値として事務局では考えておられるよう  
ですけども、非常に問題が問題ですから、たくさん回答していただいた方がより正確度は高くなると思  
うんですけども、できるだけたくさん集めていただくようお願いしたいと思います。

ほかにご質問、ご意見がありましたら。よろしいですか。

「なし」という声あり

豊口委員長

じゃ、後ほどまたご意見等がありましたらお願いしたいと思います。

続きまして、次の有識者ヒアリングにつきまして事務局からご説明お願いいたします。

事務局（竹見班長）

それでは、続けてご説明をさせていただきます。

資料ナンバー3の1ページ目をご覧になってください。こちらの一番上の方の水色で囲ってある有識  
者ヒアリング調査というここのご説明をさせていただきます。

資料ナンバー5をご覧になっていただきたいと思います。その中で、前回は概要等をご説  
明させていただきましたけれども、今回またご確認ということで説明をさせていただきます。まず、概  
要ですけれども、調査目的といたしましては、有識者ヒアリングというのは地域を全体視して考えてい

く有識者から導かれるなりたい姿ですね、いわゆるWANTという部分なんですけど、そういったものを引き出していききたいということです。

(2)が活用方法ということで、地域のそういった有識者の方々からなりたい姿というものをいろいろ引き出していただいて、将来の地域のなりたい姿の源泉として将来都市像の材料とするということですから、先ほどの資料ナンバー3の1ページございますようにまちづくり市民会議、いわゆるワークショップの討議資料としても活用させていただきたいということです。

それから、(3)の調査方法ですけど、選定した有識者に対してインタビュー調査を実施するという事です。

それから、(4)が対象選定の考え方・人数ですけども、有識者の方はいわゆる地域振興活動に携わっているオピニオンリーダーということで、単に団体の長だとかということではなくて、やっぱり地域の活動にいろいろ普段から携わっている方ということです。人数は各市町村1名以上として、大体10名前後ということで考えております。

それから、(5)の調査スケジュールですけど、これもちょっと急ぎ足なんですけど、4月30日頃までにヒアリングを完了する予定となっております。

それから、2番の取材項目ということですけど、こちら地域の本物の資源とか、それから地域の特性というものをやはりこの中でいろいろ聞いていききたいということで、まず(1)は8市町村の現状についてということで地域の現状や課題についてと、特に個人的に思っていることでも結構なんですけども、できるだけ具体的に聞いていききたいということです。

それから、地域の誇れる特性や今後も大切にしたいものとか、各市町村では自慢できる地域資源がいろいろ多くございますので、そういった自慢できるそういったものを聞かせていただきたいということです。

それから、(2)の長岡地域の市町村合併についてということで、アンケートでも聞いていましたけれども、合併に際して期待すること、懸念することを全体を見渡せる方からいろいろ聞いていききたいということです。

それから、合併新市における現市町村など各地域の役割分担についてということで、先ほども委員様の方から役割分担のお話も出ましたけれども、そういったものもインタビュー調査をしていききたいということです。

それから、(3)の8市町村の今後のあり方についてということで、特に地域の将来はこうありたい、それからこういうふうになるべきだとか、そういったものもインタビュー調査でお聞きしたいということです。

それから、特に重要と考えられる新市の行政施策や行政サービスということで、これも個人的な評価、お考えでいいんですけども、アンケート調査だけに偏るんじゃなくて、こういった有識者の方からもいろいろご意見をいただいて今後の将来構想あるいは住民会議の方にご提示していききたいということでご

ざいます。

以上です。

豊口委員長

ありがとうございました。先ほど三島町の小池委員の方からご質問がありましたけども、こういう形で広く意見を集めていこうと、こういうことになるんだろうと思います。

今の事務局からの説明の資料5につきましてご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。はい。

二澤委員

有識者の範囲でございませけれども、ここに書いてございませが、1の(4)の上の方でしょうか、対象者となる有識者は地域振興活動等に携わっているオピニオンリーダー等というふうに書いてございませが、(1)の調査のところの目的を見ますと地域を全体視して考えていく有識者からというふうなことがございませ。それで、このイメージとしては、その地域に住んでいて、その地域全体を見渡せるようなリーダーというふうなことが一応イメージされているみたいですが、もう少し幅を広げて、その地域のことはよく知っているけれども、少し離れて距離を置いて見ているリーダーといひませか、例えばその地域の出身者で現に東京あたりで活躍しているような方でいろいろな、なりたい姿というよりも、どちらかというところあるべき姿の方にテンションは近くなるのかもしれないけれども、そういったような方の意見も入れたらおもしろいのではないかなと、また客観視できるような意見も聞かれるんじゃないかというふうな気がしませるので、できればそういう方もこの対象の中に加えていただければというふうに思ひませが、いかがでございませしょうか。

豊口委員長

ありがとうございました。事務局の方からご意見がありましたら。

事務局(高橋次長)

さまざまな意見をいろいろなところからとりたいというのが有識者のヒアリングの趣旨ですので、今のご意見についてもそのような考え方も中に入れながら選択をしたいというふうな考えております。

以上です。

豊口委員長

ふるさとに対する意見というのはかなり厳しいものを持っていらっしゃる方もおありになると思ひませすから、おもしろいだろうと思ひませ。よろしくお願ひいたします。

ほかにご質問、ご意見ございませせんか。

はい、お願ひいたします。

長谷川委員

小国の長谷川でございませ。

今ほどお話にもあった(4)ですね、各市町村1名以上とし、計10名前後とすると。前と後ろとこれ



かなり違うと思うんですね。それで、これを選定するに当たっては各市町村に任せるのですか、それとも皆様方が抽出するんですか。その2点だけお聞かせください。

事務局（高橋次長）

1名につきましては、市町村と相談をしたいというふうに考えております。私どもの方にも今のご意見もいただいておりますし、腹案をつくって全体の中で10名前後と考えておりますので、それが今8になるのか9になるのか10になるのか、そういったことで10名前後ということで人数は確かに合わないわけですが、できればできるだけ多くのという考え方で調整をしたいというふうに考えております。

以上です。

豊口委員長

よろしいですか。

長谷川委員

はい。

豊口委員長

ありがとうございました。

ほかにございませんか。

「なし」という声あり

豊口委員長

それでは、後ほどまたご意見等がありましたらお受けしたいと思いますが、次のまちづくりワークショップにつきまして事務局からご説明をお願いいたします。

事務局（竹見班長）

それでは、ご説明いたします。

資料ナンバーの6をご覧ください。長岡地域市町村合併まちづくりワークショップ運営計画案というものでございます。前回もご説明をさせていただきましたけども、また確認の意味で再度ご説明をさせていただきます。

まず、1番、開催の目的ということで、こちらに書いてございますように長岡地域の住民を対象として実施するいわゆる住民アンケート調査とか有識者ヒアリング、これから行いますけれども、そういった分析結果に基づきまして、これからそのワークショップの中で実現したい将来像をたくさん出していただいたり、それから実現可能な将来像は何かというものを再検証、それから確認していくということです。これも先ほどの資料ナンバー3の1ページに書いてございますように、1ページ目の黄色い部分ですね、まちづくり市民会議ワークショップということでわかりやすい図が描いてございます。今申し上げましたように実現したい将来像、なりたい姿、それから実現可能な将来像、なることができる姿というものを十分にご討議していただいて、最終的に実現すべき将来像、なるべき姿をワークショップの中でいろいろ検討していただくということになります。こちらにありますようにワークショップが目指

すもの、今ご説明しましたように合併するとしたらこんな町になってほしいというものを参加者で考えていただくと、それからワークショップの成果の活かされ方なんですけど、地域アンケート調査の結果とともに検討を加えて、更に将来構想に反映していただくと、もちろんこちらの小委員会の皆様方にもいろいろこの結果をもとに更にご検討をいただきたいということになるかと思えます。

2番がワークショップのイメージです。こちら前回もご説明させていただきましたので、ちょっと割愛をさせていただきます。全体コーディネーターとして小疇弘一さんからお願いしたいということで、あとファシリテーター、いわゆる各テーブルにつくファシリテーターは建設技術研究所・U F J総合研究所共同体スタッフと、あと地域協力者で対応ということで、こちらは特に行政側の方は、自由な住民の皆様方から意見をいただくということで、行政側の方からはこちらの方には参加はしないということで考えております。

それから、2ページ目をご覧ください。メンバー構成につきましては、8市町村からの参加ということで、将来構想に関心の高い住民の参加ということです。市町村推薦枠として各市町村4名、8市町村で32名、それから一般公募枠ということで20名程度ということで前回ご説明をさせていただきました。メンバーの構成なんですけど、4ページ目を、ちょっと飛びますけれども、ご覧ください。ワークショップ参加予定者についてということで、一応まだ名簿の方は整理しているんですけど、こういう結果になっております。推薦者数としましては、各市町村4名ですんで、8市町村で32名、それから公募につきましては3月いっぱいですね、公募をさせていただきました。全部で18名の公募がございまして、合計として50名のメンバーでワークショップに参加していただいて運営していくということになります。

2ページにもう一回戻っていただきたいんですけど、今回初めてご説明をさせていただく部分がございまして、それは、4番のワークショップの公開についてということです。ワークショップの傍聴についてなんですけれども、先ほどご説明しましたように一般住民の皆様方の自由な意見交換、検討作業を行っていただくということでございますので、一般の方々の傍聴というのは原則として行わないということにさせていただきたいなと思っております。ただし、各市町村の広報の担当の方への対応といたしまして、各市町村担当者1名の入室は可能としたらどうかということで考えています。

それから、取材等につきましても、マスコミの皆様方今日いらっしゃっておりますけれども、ワークショップでの協議、作業の支障にならないことを前提として、時間を限定させていただいて、最初のワークショップを開催してから10分ぐらいとか、そういった形で時間をちょっと区切らせていただいて撮影をしていただきたいというふうに考えております。それから、参加者へのインタビューについてもワークショップ終了後メンバーの了承を得た上で対応していきたいなということで思っています。

それから、ワークショップの開催なんですけど、第1回目をこの4月17日木曜日、皆様方の手元の資料、火曜日になっているかと思えますけども、木曜日でございます。一応7時から長岡市役所、こちらの会議室の方で行いたいと思っております。あと、第2回、第3回、それからもし3回でなかなかまとまらないということになりましたら予備開催ということも考えております。

それで、今日ワークショップを実際に運営していただきます全体のコーディネーターということで小疇弘一さんが来ていらっしゃると思いますので、ご紹介をさせていただきます。3ページ目をご覧ください。

小疇弘一さんの略歴と業績がこちらに書いてございます。小疇さんは建築家でいらっしゃいまして、1946年新潟市生まれということで、現在株式会社アーバンプランニングを設立されて、それからNPO法人のまちづくり学校を設立されております。NPO法人につきましては、現在まちづくり学校の校長をされているということです。特にNPO法人のまちづくり学校関連の主なものとして、下の方に書いてございますように、さまざまところでご活躍をされているということで、ワークショップに関しまして言えば県内では第一人者ということが言えるかなということで今回ご紹介をさせていただきます。

続いて小疇さんの方から実際どういう形で運営していくかということをご説明していただきたいと思っております。

#### 小疇コーディネーター

こんばんは。小疇と申します。ちょっと風邪引いて変な声出していますが、お許してください。

最初に、ワークショップ、ワークショップと言っているけど、ワークショップって何なんだと、これまでの会議と何が違ってどういうところがいいんだということをきっちりとお集まりの方とお話し合いをしたいと思っております。アンケートとかヒアリングは、これ言ってみれば1人の作業であります、ワークショップはそれを超えてグループの作業、そしていろんな人との話し合いの中で新しい気づきをみんなで共有すると、そういう形をとっていきたいと思っております。

それから、もう一つ、特に今回大事にしたいと思っておりますのは、参加された方がつくっていくワークショップにしたいというふうに考えております。特に今回は、5月いっぱいである程度の成果を上げてほしいというご要望があります。日にちが短いと例えば第1回のワークショップでは何をやると、例えば現状をみんなで見てみましょうと、第2回目では宝物を探してみましょうと、第3回では宝物の見分け方をみんなで考えましょうというふうに決めた形でやる例が多かったわけです。ただ、それは非常に参加者から不満が多くなります。もう路線が決められているんじゃないかと、やらせじゃないかとすぐ出てきますし、それから時間が足りない、時間が足りないというのを必ず毎回言っています。今回特に夜7時から9時、それを何回かということになりますと必ずその話が出てくるだろうというふうに考えておまして、特に第1回のワークショップでは5月までにこういう成果を出すためにはどういう形でワークショップを運営したらいいだろうかということをもまず参加の皆さん方から考えていただくと、そういうワークショップをやりたいと今思っております。3回でいいのかと、それも夜7時から9時まででいいのかと、それで足りなければ土曜日半日使う手もあるんじゃないかと、あるいは日曜日1日もやりたいという方が出てこられたとすると、そういうものを重視しながらワークショップを組み立てていきたくたいと、さらには1回目、2回目、3回ではどういうことをやりたいということも参加された方々からどんどん意見を出していただいて、グループ討議の中からその方向性をつくっていただきたいというふうに思っております。こういうやり方は私自身も初めてでありまして、大変不安であります、

これまでの不満を解消するにはもうこれしかないという形で臨みたいというふうに思っております。さらには、1回ごとに振り返りシートというものをご記入をいただくと。そこにはワークショップに参加してうれしかった点、不満に思った点、悲しかった点というものを各会の終わりに書いていただくと、そして不満に思われた点、悲しかった点についてはその次の会で確実にリカバリーするという形のワークショップを展開していきたいと、そのように思っております。まず、4月17日第1回をやってみないとわからない点がたくさんある訳ですが、これまでの経験を踏まえながら良い成果を出していきたいと思っております。

以上です。

豊口委員長

どうもありがとうございました。

それでは、今までの事務局の説明等につきまして、ご質問、ご意見がありましたらまずお伺いし、それから小疇さんに何かご質問がありましたら、次をお願いをしたいと思います。

資料に基づきまして何かご質問がありましたらどうぞ。特にワークショップ参加予定者という一覧表が4ページにありますけども、山古志村では公募者数がゼロと書いてあるんですが、これはよろしいですか。

「本当はあればよかったんですが」という声あり

豊口委員長

ほかにご質問ございませんか。

「なし」という声あり

豊口委員長

じゃ、今詳しくワークショップにつきまして説明をしていただきました小疇さんに何かご質問がありましたら。ご意見でも結構でございますが、よろしいですか。

じゃ、小疇さん、よろしくひとつお願いいたします。どうもありがとうございました。

それでは、次に用意されました次の議題でございますが、将来構想策定小委員会、平成15年度の事業計画につきまして説明をしていただきたいと思います。

事務局（竹見班長）

それでは、ご説明させていただきます。

お手元の資料ナンバーの7をご覧ください。新市将来構想策定小委員会事業計画（案）ということでご説明をさせていただきます。今回の資料は、新市将来構想策定小委員会だけではなくて、任意合併協議会との関係、それからワークショップ、それからアンケートの関連がおわかりになるようにちょっと表にまとめさせていただきました。それから、今までもご説明の中で非常に時間が厳しいということの中で今回ご提示させていただいている内容についても流動的ということでお考えをいただきたいと思いますと思っております。1回目、今日は2回目を行っておりますけれども、今回の小委員会の結果につきまして

は第4回任意協議会、4月11日の方にご報告をしていただくということになるかと思えます。

それから、右の方にいきまして、4月ですけども、第1回のワークショップが4月17日に開催されるということです。

それから、右の方にいきますと、アンケート関連ということになりますと、地域アンケートの実施というものを中旬から下旬にかけて行うということです。

それから、5月でございますけれども、小委員会ですけども、第3回の小委員会の日程は5月16日ということでお願いしたいなと思っております。その第3回の部分につきましては、ワークショップの結果の速報をさせていただきます。それから、財政シミュレーション、非常に今景気が不透明、それから不確実な時代が今後も続くということなんですけど、そういった財政的にどうするかと、そういったものを踏まえてシミュレーションの考え方をこの場でいろいろご意見をいただきたいなと思えます。それから、一番がデジタルマップの考え方の整理ということで、今現況調査とか、これからどんどん、どんどんいろんな調査も行っていきますけども、それを地図情報に落とし、皆様方を初めとして住民の方々からもいろんなそういった資料を理解していただくために、マッピングシステムというものをちょっと今後考えていったらどうかということでご提案をさせていただきたいと思っております。

小委員会は、申し訳ないんですけど、5月以降、どうも7月まで終了させるためには一月に2回ぐらいずつ開催しないとちょっと間に合わないんじゃないかなということで、5月の下旬には第4回の小委員会をお願いしたいなと考えております。第4回の小委員会ではワークショップのいわゆる中間報告、そして有識者ヒアリングの報告、地域らしさ価値の検討というものををお願いしたいなということです。

それから、右にいきまして住民参画関連では、5月はワークショップということで、5月の中旬、中旬、それから予備があれば下旬に行うということになります。

それから、アンケート関連では有識者ヒアリング、そして地域アンケート結果の取りまとめができるというふうな運びになります。

任意合併協議会、左の方にいきますけれども、第5回の任意合併協議会の方にワークショップの、これ終了報告になっておりますけども、終了というものを消していただきたいと思えます。ワークショップの報告、それから財政シミュレーションの中間報告を行っていききたいということです。

それから、6月ですけども、第5回の小委員会を中旬ごろに開催させていただいて、地域アンケートの結果の検討、それから財政シミュレーションの結果の検討、それからデジタルマップシステムの検討、それから将来像、基本理念、基本目標等の検討をお願いしたいということです。

それから、第6回の小委員会は協議会開催後に将来構想の素案の概略の検討をお願いしたいということです。

左の方にいきまして協議会ですけども、第6回の任意協議会ということで、地域別整備方針とか、それから将来像、基本理念、基本目標の報告、それからデジタルマップシステムの報告、財政シミュレーションの報告をしていききたいということです。

それから、7月ですけども、こちらは7月になればなるほどタイトになってくると思いますけども、2回で終わるかどうかちょっとまだわかんないんですが、第7回の小委員会、それを将来構想の素案の検討ということでお願いしたいと思います。

それから、第8回の小委員会につきましては、第7回の任意協議会に報告をさせていただいた後報告書、概要版の取りまとめを行っていくということになるかと思います。

右の住民参画関連なんですけど、ワークショップの関係とかアンケートの結果を協議会だよりの方で公表していこうということです。あとはアンケートもそうです。

そういう形で7月末までに何とか皆様方からいろいろお難儀していただいて、将来構想を取りまとめしていきたいということで考えておりますので、よろしくをお願いします。

豊口委員長

ありがとうございました。事務局からの説明で非常にタイトで申し訳ないというふうなお話でありましたけども、ひとつご協力をいただきたいと思います。

今の事業計画につきまして何かご質問がありましたら。

はい、お願いいたします。

村上委員

別に事業計画に限ったわけじゃないですけど、トータルでお願いしたいんですけども、コンサルタントの方にもお願いしたいんですけども、大変言葉が抽象的で、言葉のための言葉とか、理想像のための言葉みたいな言葉が大変多いように感じるんでございますけども、ぜひとも新市将来構想ですんで、一般市民の方にもわかりやすい、新市の30万人都市はこういうまちなんだと、例えば信濃川など河川という単なる言葉がここにすぐれているという部分で出ていますけども、将来はこれをこういうふうなまちなんだと、こんなまちでどうですかという具体的なプレゼンまで持っていけるような、明確に市民にわかりやすいようなところまで持っていったらなというふうに思っております。大変言葉が抽象的な部分が多いようにもみえるんで、ぜひともその辺まで皆さんにわかりやすいような、一般市民にも新市はこういうまちなんだと、皆さんいかがでしょうかというところまで持って行っていただきたいなというふうに思っている次第でございます。大変ちょっと私も抽象的なんですけども、言葉のための言葉とか、表現上の言葉とかという部分にならないようお願いしたいと思います。お願いです。

豊口委員長

ありがとうございました。

それでは、全体を通してこれだけは言っておかないとというふうなご意見がありましたら、最後にお伺いしたいと思います。

野田委員

民間レベルのやはり将来構想、それはそれとして、皆さんが非常に意を用いてより多くの市町村民の意見を吸い上げようと、これはこれで理解できますし、結構なんですけど、先ほどもちらっと声が出まし

たように、それぞれの市町村に将来計画とか合併以前の将来計画あるいは長期構想、総合計画なるものがありますので、その辺を、それはそれとして、またそれらも十二分に組み入れるような努力はひとつしていただかなきゃならんと思うんですが、その辺いかがですか。

豊口委員長

事務局、じゃお願いいたします。

野田委員

全部入れるということではないにしても、その辺がお互いのすり合わせの中であるべき姿、それぞれ今ある市町村はそれなりのビジョンを持ってやってきたもんですから、整合性を持たせながらそれを新市の中に入れていただけるような対応をしていただきたいと思いますけれども。

事務局（高橋次長）

ありがとうございました。基本的な考え方としましては、8市町村がまとまって一つになった場合に新たなまちをつくっていこうという考え方であります。したがって、新たなものをつくっていくわけですが、当然それぞれの地域が全く違うまちになってしまうということは想定されませんので、おのずと現在持っている長期的な計画のものが入ってくることは当然と思っています。ただ、それを寄せ集めて一つのものをつくっていくということではなくて、新たなまちづくりをしていく中で部分的に、部分的というよりは多く入ってくる部分もあるかもわかりませんが、結果として今持っているそれぞれのまちづくりの方向が入ってきて一つのものになっていくという考え方でありますので、当然今あるものを入れていただきたいと思いますというよりは新たなものをつくったその結果として幾つかのものが入っているというようなことになろうかと思っております。

以上です。

豊口委員長

ありがとうございました。私も個人的にはこの8市町村が将来合併するという事になった場合には、それぞれの地域が今までつくられてこられた歴史とか、文化的な伝統であるとか、そういったものはやはりお互いに認知、尊敬し合いながら一つの将来像を考えていくのだろうと思うんです。この小委員会がやっぱり将来の姿をつくり上げていくわけですから、できるだけご発言をいただいて、この場で一つの将来像を一般の方々にわかるように固めていく必要があるのだろうと思います。コンサルの方がお作りになるんじゃないで、この小委員会が考えて構築していくわけでありますので、責任は非常に重大だと私は思います。そういう点でひとつ今後の委員会においても活発なご意見をいただきたいと思いますというふうに考えております。

今日用意されました項目すべて終了いたしました。何か事務局の方からご連絡することがありましたらお願いしたいと思いますが。

事務局（高橋次長）

それでは、4番のその他というところで次回の小委員会の日程について説明をさせていただきます。

先ほど全体のスケジュールの中で少し出てまいりましたが、次回の小委員会を5月の16日と考えております。時間も今日と同じ6時30分から、会場も今2回目を開催しております長岡市役所の大会議室ということで考えております。正式にはまた書面でご依頼文を差し上げますが、現時点では5月16日と考えておりますので、よろしく願いをいたします。

以上でございます。

豊口委員長

ありがとうございました。

それでは、今日用意されました議案はすべて終わりました。大変説明もわかりやすかったし、ご協力もいただきまして時間内に終わることができました。ありがとうございました。

それでは、事務局の方にお返しをいたします。

事務局（北谷事務局長）

皆様のご協力のもとスムーズに今回も終了させていただくことを感謝申し上げて、これにて閉会といたします。

本日もどうもありがとうございました。

閉会 午後8時20分